

ニチコングループにおける QC 検定の導入・活用事例のご紹介

ニチコン株式会社
品質保証本部

1 はじめに

ニチコン株式会社は 1950 年の創立以来一貫して、あらゆる電子・電機機器に不可欠なコンデンサや回路製品の開発、製造、販売を手掛けてまいりました。お客様のニーズがますます高度化・多様化している昨今、当社は 3 つのコア事業（アルミ電解コンデンサ／フィルムコンデンサ／回路製品）で、トップノッチ（第一級・最高の）経営を打ち出し、特に伸長目覚しい「エネルギー・環境・医療機器」「自動車・車両関連機器」「白物家電・産業用インバータ機器」「情報通信機器」の 4 市場分野で、積極的な企業活動を展開しています。

2 企業概要

- (1) 商号 ニチコン株式会社 (NICHICON CORPORATION)
- (2) 本社所在地 京都市中京区烏丸通御池上る
- (3) 設立 1950 年（昭和 25 年）8 月 1 日
- (4) 代表者 代表取締役社長 吉田 茂雄
- (5) 資本金 14,286 百万円（2014 年 3 月 31 日現在）
- (6) 社員数 5,792 名（2014 年 3 月期 連結）
- (7) 上場区分 東京証券取引所一部上場
- (8) 売上高 104,689 百万円（2014 年 3 月期 連結）
- (9) 国内拠点 工場 10 拠点，支店 3 拠点，営業所 6 拠点
- (10) 海外拠点 工場 5 拠点，販売店 14 拠点
- (11) URL <http://www.nichicon.co.jp/>
- (12) 事業内容



【本社社屋】

【アルミ電解コンデンサ事業】



【フィルムコンデンサ事業】



【回路製品事業】



3 QC検定導入の経緯

当社では、品質管理基本方針として「品質の絶対性を第一義とする生産活動」を目指しております。しかしながら、製造改善及びクレーム対応では各種QC手法を用いた解析が上手く使いこなせないという問題点がありました。

QC検定取得促進の取り組み開始以前より若干名の検定合格者がおり、QC検定の社内への導入は品質重視への意識向上に非常に効果があるという意見が出されました。これを採用することとなり、2011年下期よりQC検定を推奨し品質に関わる社員全てを対象に受検を開始しました。

4 QC検定受検の取り組み

社内教育の一環として、参考書、問題集を使った教育を本社品質保証本部が主幹となって開催しております。

また、合格者に対する奨励金制度も制定し、受検へのモチベーション向上につなげています。

さらQC検定1級への受検者が増加傾向にあり意識向上にもつながっていると考えております。

現在は、品質関連業務だけでなく、製造、開発業務に携わる社員も対象にQC検定受検を促進しており、社員の取得率向上を図っております。

5 今後の活動予定

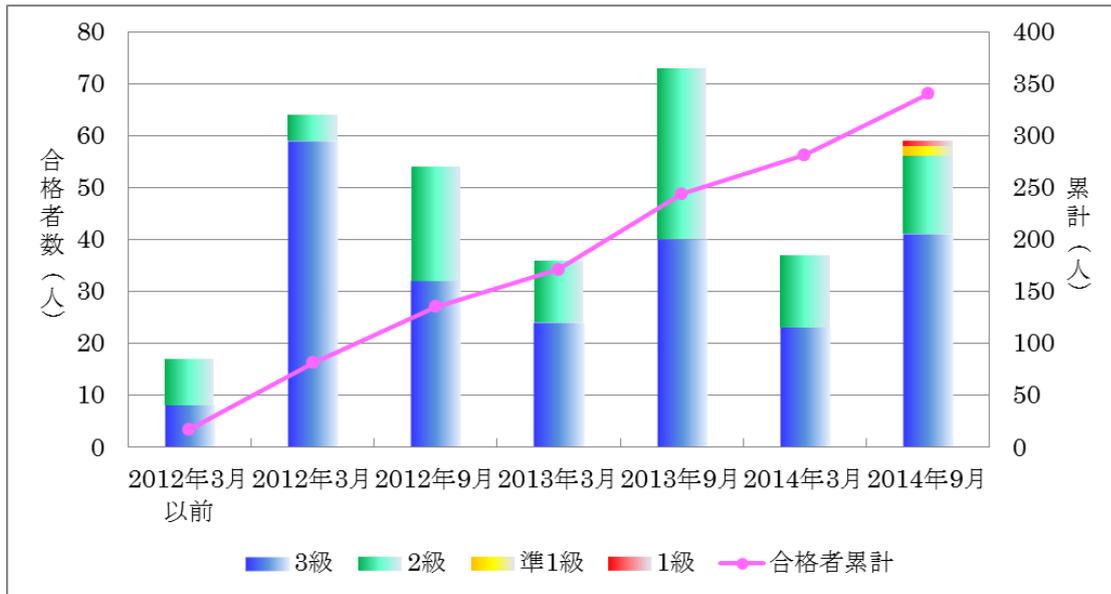
前年度の合格者を講師として受検者の教育を実施し、QC検定取得率向上及び合格者の更なるスキル向上の仕組みを設けたいと考えています。

また国内の活動の実績より、海外への展開を計画しています。海外勤務中のQC検定合格者による講習会開催により、海外のローカル社員にも品質重視の考え方を浸透させていきたいと考えています。

6 QC検定合格者実績

表 1

	2012年3月 以前	2012年3月	2012年9月	2013年3月	2013年9月	2014年3月	2014年9月	合計
1級							1	1
準1級							2	2
2級	9	5	22	12	33	14	15	110
3級	8	59	32	24	40	23	41	227
合計	17	64	54	36	73	37	59	340
合格者累計	17	81	135	171	244	281	340	



グラフ 1

7 QC検定合格者の声

【3級合格】 ニチコンワカサ 製造課 男性社員

私は自らの所属する職場で品質の重要性を周知する立場にありました。しかしながらQC検定の受検以前はQCについて漠然とした理解しかありませんでした。今回初めてQC検定制度の存在を知り、まずは自分が理解する事が重要と考え本制度を利用して受検することを決めました。参考書や社内教育を利用してQC検定の勉強を進めるうちに、漠然とした理解であったQCに係わる部分が明確に理解する事ができるようになりました。明確に理解し知識が自分自身のものになったことにより各種問題についてデータに基づいた正しい論理的なアプローチができるようになりました。これにより自分自身の問題に対する理解が深まり自らの発言に自信が持てるようになりました。今後もQCに関する学習を続け自らの成長に繋げて行きたいと考えます。

【2級合格】 ニチコンワカサ 品質管理課 男性社員

私がQC検定を受けるきっかけは社内で受検の奨励があったことに加えて、業務上よく耳にするQC七つ道具などの品質管理手法が正しく理解できていなかったことによります。また当時は生産技術部門に在籍していたこともあり品質管理手法についての興味を持っておりました。まずは3級に合格できたので半年後に開催される2級を受検することにしました。しかし当初は2級の扱う範囲が非常に広範なことに困惑すら覚えました。そのための勉強手法は3級と重複せず且つ重要と考えられる2級の事項を熟読し、過去の問題集も間違えやすい設問に特化して復習を行うことにしました。結果として2級に合格することはできましたが、試験問題を振り返って答え合わせをしてみれば設問の意味を取り違えているところもありました。受検のための勉強ではなく時間を掛けて更に全体像を把握するべきであったとの反省もあります。

現在は生産技術部門から品質管理部門へ異動になり日々の業務の中でQC検定から学んだ品質管理を実践しており、改めて品質管理手法の重要性を痛感しております。今後は自らの成長だけでなく後進のQC検定受検者への支援も行っていきたいと考えております。

【1級合格】 ニチコンワカサ 品質管理課 男性社員

私が入社した時に社内でQC検定が推奨されており私もQC検定2級を受検し合格することができました。その2級受検勉強の過程でQCの考え方や手法に興味を持ち、更に深い知識を得るためにQC検定1級に挑戦することにしました。最初は2級受検時と同様に1級のテキストと過去問題集を購入して学習を始めました。しか私はQCに対する知的好奇心が受検に対する動機付けになっていたこともあり受検テキスト以外にも様々な関連書籍を購入し熟読しました。例えば起床直後、勤務の休息时间、帰宅後、就寝前などの時間で寸刻を惜しんで、信頼性工学、QCサークル、著名な技術者のエッセイなどで見識を深め知的好奇心を満足させていきました。これらの書籍で自宅の本棚一段分がQC関連書籍で埋まってしまった程です。

一度は不合格になり最短でQC検定1級に合格できた訳ではありませんが、この不合格があればこそ、QCに対するより深い理解と更なる業務への適用力が育まれたと考えております。既に2級、3級を取得されている方々も是非1級に挑戦していただきたいと思います。

【3級合格】 ニチコン製箔大町工場 業務課 男性社員

私がQC検定を受けたのは以前より自分自身のQCスキルアップを図りたいと考えていたところ社内でQC検定が奨励されていたことがきっかけで、今回3級を受検しました。事務系であった私にはQCについての基礎的な知識が不足していましたので、まず過去問題を読み込み用語と出題傾向を把握することから勉強を開始しました。その後勤務先が推奨しているテキストを用いて広範な用語、公式等を憶えていきました。しかし事務系には馴染みの薄い確率や分布の理論についての学習も必要となり、私自身の知識では足りない部分については技術職の同僚や既にQC検定2級を取得している方々に教えて頂きました。

この様な勤務先の方々に支援して頂き無事にQC検定3級に合格することができました。しかし合格はできたものの自分自身の理解力、応用力が不足しており現実の業務に活かしていない内容が多くあります。今後は更に多くの業務にQC検定で得られた知識を活用して高品質の製品とサービスをお客様に提供できるように自らを高めていきたいと考えます。

【3級合格】 ニチコン製箔大町工場 業務課 男性社員

私は間接部門に所属しておりかつてはQCの知識が必要とは考えておりませんでした。また、社内の品質管理活動を他人事のように考えておりました。しかし顧客満足を高めるために全社を挙げて品質向上に取り組むべきであると気づきQC検定取得推進の制度が後押しにもなり受検することを決めました。いざQC検定の勉強を始めると自分自身の知識の無さを自覚し製品を造る工場に所属しているにもかかわらず、ここまで無関心だったのかと驚き、また不安になりました。モノづくりに直接関係していない社員でもQCの知識は全員が持ち、全社の総合力で品質を向上させることが重要だと実感しました。

【2級合格】 ニチコン製箔大町工場 生産技術課 男性社員

私は生産技術部門に所属していましたがQCに関する知識が不足しておりました。社内でQC検定取得推進の制度があり不足している知識を補えるよいきっかけになると考え受検を決めました。QC検定2級は2度目の受検で合格しました。1度目が不合格だったこともあり単に問題を解くだけでなく設問と解答を対比させて内容を充分理解できるようにするなどの勉強のやり方を工夫しました。今回、QC検定2級の勉強を通じて品質管理の考え方や各種手法について多くの知見を得ることがで

きました。今後は修得した考え方や手法を生産技術の業務に活かし、生産現場の品質改善に取り組んでいきたいと思っております。

【3級合格】 ニチコン本社 品質保証部 女性社員

私は社会人1年目でQC検定3級に合格することができました。受検のきっかけは配属先の品質保証部でQC検定のセミナーを受けたことです。中国人である私にとって外国語である日本語でQC検定の試験を受けるということは非常に難易度が高いという印象がありました。しかし社内でQC検定のセミナーを受け勉強を進めていくうちに、折角勉強するなら正式にQC検定を受検して合格したいと考えました。勉強を始めた時は長文を読み込むのに時間が掛かりましたが、問題を繰り返し解くことで本質を素早く理解できるようになり合格することができました。QC検定の勉強により品質管理に関する知見を深めることもできましたが、更に大きな成果は、外国人でも勉強すれば日本規格協会のQC検定に合格できたということであり、現在の品質保証部の業務に自信が持てたことです。今後は更に品質管理の知見を深めるべくQC検定2級合格を目指して頑張りたいと思っております。

【準1級合格】 ニチコン本社 品質保証部 男性社員

私がQC検定を受検するまで社内にはQC検定2級までの合格者しかおりませんでした。しかし現在ではQC検定1級を受検する人も増え始め、私も少しは受検促進に貢献できたのかと嬉しく感じております。

QC検定の勉強をする過程で新たな発見や自分自身の誤った理解に気づかされることもありました。また受検するまでは合格することがゴールだと思っておりましたが勉強がすすむに従い学ばなければならないことが多々あると気づかされることになりました。今回の合格はゴールではなくスタートであったという大きな気づきを得たわけです。品質管理の業務で使う言葉一つをとっても今まで思っていた以上の重みがあり、場合によっては全く違った言葉にみえるようになり、自分自身ショックを覚えることもありました。今後は全社でQC検定を勉強する人達が更に増えるように支援し、品質管理に対して新たな発見と進化が生まれること、それらが最終的に顧客へ安心・安全な製品を提供できることにつながるように支援を続けたいと思っております。

8 QC検定に期待すること

ものづくりにおいて製品が高品質である事は全世界的に必須要件となっております。現在は日本製品の品質が認められていますが、今後もその品質を保っていかなければなりません。全世界で日本製品の優位性を保つためのツールとして、また、QC検定が世界標準として通用するように更なる制度の進化を期待しております。

9 学校（学生・生徒）に期待すること

多くの企業が製品に限らず仕事の質を向上させるために、基本となる品質管理の知識が重要と考えています。この考え方は学生時代の学習や研究においても充分当てはまるものです。QC検定を通じて学生時代から品質の重要性と活用方法を学んでいただければ、一段と学生時代が有意義に過ごせるようになります。そして社会人へと羽ばたくための準備のためにも非常に有効な学習と考えますので在学中からQC検定に挑戦されることを期待します。

以上